

吉野ヶ里遺跡についての一考

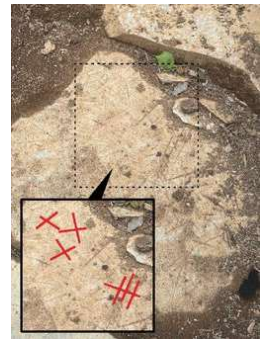
【表紙に書こうとしたら長くなってしまいました…(;^_^A)】

先月、興味を引くニュースが日本中に流されました。と、書くと「何のニュース？」となるのですが、私が特に関心を持ったのは、吉野ヶ里遺跡から石棺墓が発見されたというニュースでした。「ついに卑弥呼の墓の発見か？」などと言われましたが、そもそも、卑弥呼の時代とは数百年のずれがあるし、邪馬台国は九州じゃない！と、思っている私は世間とは違った意味でドキドキしていたのかもしれませんが。





(私の思っている邪馬台国の場所について書くと大変な事になるるのでやめておきます。)

そんな私が一番興味を持ったのが「線刻」と言われる石棺墓のフタの部分に刻まれた記号(写真に見られる赤い線の事です。ちなみに、赤くなっているのは見やすくするための加工です。)が何を意味するかでした。もちろん、まだ専門家の見解はまとめられていませんが、この線刻の模様？記号？文字？はフタの内側と外側の両面に描かれていました。



私は少し？考えました。

- ① フタの内側を見ることが出来るのは埋葬された人、フタの表側を見ることが出来るのは生き残った人たち…その両者が同じようなメッセージを見るのは違和感がある。
- ② 線刻の模様は数を表しているようにも見える(例えば、は10、は30)。
- ③ 埋葬者の性別は分からないにしても有力者であることは間違いなし(普通の人には甕棺墓【かめかんぼ】に埋葬された)…
- ④ 時代はムラからクニへの転換期(ムラとムラが戦って大きなクニになっていく時代)…

以上をまとめると、このお墓の埋葬者は勇敢な戦士で線刻は、彼(彼女)が戦いの中でやっつけた人の数を表しているのではないかと。あまりにも強くて多くの人をやっつけたので、内側(外側？)だけでは足らずに両面にその数を刻んで、彼(彼女)の栄光を後世まで残すことに決めた…



甕棺墓(かめかんぼ)

な～んて、考えてみました。実際、10進法が発見？発明？されたのは古代エジプト文明と言われているので、もしこれが正解なら新たな問題が生じることになります(笑)

調査の結果、石棺墓の中からは何も出て来ず、世間はがっかり(邪馬台国が畿内にあると信じている人はホッと)する結果になりました。この時代は古墳時代の前なので、そもそもお墓に銅鏡などを入れる習慣が広まっていない時代でもあります。日本の失われた数百年。そもそも、邪馬台国や卑弥呼については中国の書物(魏志倭人伝)に記述があるだけで、日本の書物(古事記や日本書紀など)には、一言も書かれていません。まだまだ分からないことがたくさんある時代、個人個人が自由な意見を言って良いんです。こうして、残しておけば何年かした後に「ほらね…」という結果になるかもしれませんから…(笑)